

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する、大腸 CT（CT Colonography）検査の対応・留意点について

～緊急事態宣言解除に伴う大腸 CT 検査再開に向けて～

今般の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して、国・厚生労働省や各自治体より感染拡大防止の取組が要請されています。また、令和 2 年 4 月 16 日には緊急事態宣言が全国に拡大発出されました。その後、本邦では感染者数は減少傾向となり、5 月 14 日には特定警戒都道府県の一部とそれ以外の 34 県で緊急事態宣言が解除されました。

**緊急事態宣言が解除された地域より、大腸 CT 検査の再開を検討する時期になってきたと考えます。**しかしながら、世界では未だ猛威を振るっており、感染の第二波、第三波と感染が再燃する可能性も十分にあります。このため、**大腸 CT 検査再開に当たっては、感染防護策を適切に実施していくことが重要**です

以下に、緊急事態宣言解除に伴う大腸 CT 検査再開に向けた対応・留意点につきまして日本消化管 Virtual Reality 学会より提言いたします。

なお、本内容は本学会が示した目安です。地域、施設の状況に応じて施設ごとに協議し方針を決定してください。

また、情勢は今後も変化することが想定されます。内閣官房、厚生労働省発表には十分注意してください。

内閣官房 新型コロナウイルス感染対策 (<https://corona.go.jp/>)

厚生労働省 新型コロナウイルス感染症について

([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html))

#### 1：COVID-19 の感染経路について

2019 新型コロナウイルスの主な感染経路は飛沫感染および接触感染が基本です。消化器診療においては、消化器病学会 (<http://www.jsge.or.jp/news/archives/287>)、消化器内視鏡学会 (<https://www.jges.net/medical/covid-19-proposal>) より提言が出されています。消化器診療では、上部消化管内視鏡検査でエアロゾルによる医療従事者への感染が最も危惧されますが、糞便からのウイルス排出の可能性も指摘されており、下部消化管検査においても潜在的な感染リスクがあります。

#### 2：大腸 CT（CT Colonography）検査実施について

大腸 CT 検査は健診・人間ドックでの実施、あるいは保険適応検査として「他の検査で大腸悪性腫瘍が疑われる患者に対して実施」され検診二次検査が主体と考えられます。この大腸 CT 検査の実施主体を鑑みますと、**COVID-19 が確定した症例・臨床的に COVID-19 を疑うハイリスク患者については検査の延期を検討ください。**

**臨床的に COVID-19 を疑わない症例（ローリスク患者）の中にも、無症候の COVID-19 患者が報告されています。無症状の患者であっても適応は検討してください。**

<ハイリスク患者>

- ・ PCR 検査や抗原検査陽性で COVID-19 確定症例
  - ・ 臨床的に COVID-19 を疑う症例
- 1) 持続する感冒症状や発熱、息苦しさ（呼吸困難感）、強いだるさ（倦怠感）のいずれかがある場合。
  - 2) 2 週間以内の新型コロナウイルスの患者やその疑いがある患者との濃厚接触歴。
  - 3) 明らかな誘因のない味覚・嗅覚異常。
  - 4) 明らかな誘因なく 4 – 5 日続く下痢等の消化器症状。

3：大腸 CT（CT Colonography）検査実施時の防護策について

**大腸 CT 検査実施時のスタンダードプリコーションは継続実施してください。** 飛沫・接触予防策をスタンダードプリコーションに追加して行うことを推奨します。フェースシールド付きマスク（またはゴーグル+マスク）・手袋・キャップ・ガウン（長袖）の着用が推奨されます。カテーテル挿入時・抜去時の便汁の飛散に十分注意を払い、検査終了後は CT 装置（特に寝台）と付属品の消毒を患者ごとに行うことが必要です。使用後のカテーテルおよび検査用パンツ等は汚染性廃棄物として厳重に処理してください。大腸 CT 検査の前処置を院内で実施する際には、受診者が使用したトイレ等もアルコールや抗ウイルス作用のある消毒剤による清拭を行ってください。なお、排泄物を処理する場合には個人防護具の着用が推奨されます。

4：緊急事態宣言解除に伴う大腸 CT 検査再開に向けた留意点

大腸 CT 検査は健診・人間ドックでの実施、あるいは保険適応検査として「他の検査で大腸悪性腫瘍が疑われる患者に対して実施」され検診二次検査が主体ではありますが、長期間にわたる休止による不利益は否定できません。健診・人間ドックも徐々に再開されるに当たり、大腸 CT 検査も再開を検討すべきと考えます。**大腸 CT 検査再開に当たっては、感染防護策を適切に実施していくことが重要です。** 今後、感染の第二波、第三波と感染が再燃・拡大の可能性も十分にあります。感染再燃・拡大時には速やかに緊急事態宣言発出時と同様の対応に戻すことを検討下さい。**患者、医療従事者双方の感染防護対策の徹底を前提として、大腸 CT 検査再開についてご考慮下さい。**

令和 2 年 5 月 21 日  
日本消化管 Virtual Reality 学会